主人公ハツの生母、金子ふじ役で出演

壇 蜜さんからのメッセージ

赤いくつと言えば港町から海外に旅立つ少女の物語をイメージしますが、秋田にも実母に先立たれながら異国との縁を紡ぐようにひたむきに生きた少女のお話がありました。

決して悲運に翻弄されただけではなく、養母に愛されながら希望を失わない姿をご覧になっていただけたら幸いです。

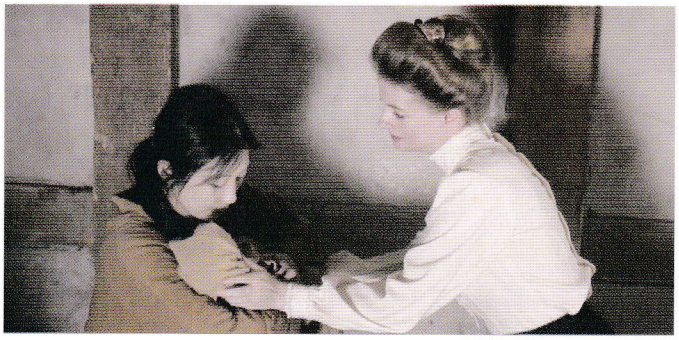
from 壇 蜜

2019年10月29日／秋田・角館でのロケにて

壇蜜さん出演の見どころシーンをちょっと紹介

映画の冒頭、ハツが異国へと渡る発端ともいうべき悲しく痛ましい事件が起きます。
夫専蔵の先妻の母親ウメと後添いの嫁である壇蜜さん演じるふじとの鉈を持っての立ち回りシーンは、何か身につまされるような衝撃感があります。そして止めに入った継娘のはつの死という悲しすぎる結末が訪れます。
翌朝、警察に連行されていく過程でのふじと巡査のやりとりも見逃せ(聞き逃せ)ません。

罪を負い連行されるふじの回想の中、専蔵に求婚されたふじが奉公先の主人(特別出演の永島敏行さんが演じています)とその妻の律に呼ばれ、専蔵との結婚について聞かれます。それに対してふじが思い丈ををぶつけるシーンは、見どころの一つと言えるでしょう。
家族というものに恵まれることなく生きてきたふじにとって、自分の家族を持つことは何よりも望んでいたものであること、その思いが観るものに切々と伝わります。



終身刑となり、獄中でハツを産んだふじは夫の専蔵にハツの引き取りを拒まれ、絶望の淵に追い込まれます。しかし教誨師として刑務所を訪れたミス・ハリソンと出会い、やがてミス・ハリソンにハツを託すことになります。この一連のシーンは、映画前半の一番の見どころでありヤマ場となります。
ふじの不遇な状況はその先も続くのですが、ハツという分身を委ね、自由に羽ばたかせることができたことで、ハツだけではなくふじ自身の心も救われたことでしょう。

もちろん、この他にも壇蜜さんの演技が光る見どころがたくさんあります。
ぜひ本編であなたの心に残る見どころシーンを見つけてください。